

# 東京言語研究所

## 集中講義のご案内

東京言語研究所では、言語学の研究者の方々ならびに言語学に興味をお持ちの方々を対象に〔理論言語学講座〕をはじめとして様々な講座を開設しております。〈集中講義〉は、多様な研究領域に関して、ひとりでも多くの方々を知っていただくため、年間 2 回の集中講義を企画しております。ぜひご参加ください。

〈演題〉 動詞の量化と数量表現・程度表現の意味 ― 事象意味論の観点から ―

〈講師〉 中西 公子 氏 [お茶の水女子大学准教授]

〈日時〉 2013年 9月 28日(土) 13:00~18:10 (90分講義×3コマ)  
29日(日) 10:30~16:15 (90分講義×3コマ)

〈会場〉 東京言語研究所 (新宿区西新宿 6-24-1 西新宿三井ビル13階)

〈参加費〉 一般 12,000 円

学生・大学院生・2013 年度理論言語学講座受講生 9,000 円

〈申込み〉 ホームページ申込みフォームまたは FAX にて下記をご連絡下さい。(定数:50名)

- ①集中講義受講希望 ②氏名 ③フリガナ ④性別 ⑤住所 ⑥電話番号
- ⑦ E メールアドレス ⑧受講料区分 (2012 年度理論言語学講座受講生・一般・学生)
- ⑨所属区分 (大学生・大学院生・教員・会社員・その他)

### 講師紹介:

1975年生まれ。現在、お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科准教授。専門は形式意味論、語用論、意味論と統語論のインターフェイス。論文・著書に“The Scope of *Even* and Quantifier Raising.” (*Natural Language Semantics*, 2012年)、“The syntax and semantics of floating numeral quantifiers.” (*The Oxford Handbook of Japanese Linguistics*, 2008年)、*Formal Properties of Measurement Constructions*. (Mouton de Gruyter, 2007年, 単著)などがある。

### ○ 問合せ先

公益財団法人 ラボ国際交流センター 東京言語研究所  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル16階  
TEL:03-5324-3420 FAX:03-5324-3427

E-mail:[info@tokyo-gengo.gr.jp](mailto:info@tokyo-gengo.gr.jp) ホームページ:<http://www.tokyo-gengo.gr.jp/>

## <講義概要>

名詞には可算 (count)・不可算 (mass)の区別があることが知られていますが、それと並行して動詞には限界 (telic)・非限界 (atelic)の区別があると言われていました。事象意味論 (event semantics)では、名詞が個体 (individual) を表すのと同様、動詞は事象 (event)を表すと分析することでこの並行性を捉えます。事象を導入することの大きな成果の一つとして、数量表現・程度表現が名詞の量化のみならず動詞の量化にも関わっていることを解明できる点が挙げられます。例えば、程度表現 *a lot* は、*a lot of sleep*では個体を、*John slept a lot*では事象を量化していると分析できます。事象の量化に際しては動詞の種類が影響を与えることがわかっており、よって数量表現・程度表現の分析は動詞そのものの意味を探る上で重要な手がかりになります。

本講座では、動詞を量化すると考えられる様々な数量表現・程度表現を取り上げ、その表現の意味を事象意味論の観点から検討します。その過程を通じ、動詞の種類と意味についても考察します。はじめに動詞のアスペクトと限界性 (telicity)に関する古典的な研究を導入し、動詞の量化に関わる様々な数量表現・程度表現の例を見ていきます。以上の基礎知識に基づき、以下の事例を詳細に検討します。

(1)日英語の程度副詞の意味 (例: *John slept well*, ジョンはよく寝た)、(2)状態変化動詞 (change of state verb)と数量表現・程度表現 (例: *The gap widened 5 inches*)、(3)「ている」形と数量表現・程度表現 (例: 竿が5センチ曲がっている)、(4)漸次的対象動詞 (incremental theme verb)と名詞の量化の対応関係 (例: *John ate an apple / apples*)

### 参考文献

日本語動詞の意味の古典書として (I)を、英語動詞の意味と事象意味論の研究書として (II)をお勧めします。

(I) 金田一春彦 (編) (1976)『日本語動詞のアスペクト』(むぎ書房)

(II) Rothstein, Susan (2004) *Structuring Events: A Study in the Semantics of Lexical Aspect*. Oxford: Blackwell.

### 講義内容(変更の可能性があります)

- 1 動詞のアスペクトと限界性
- 2 動詞を量化する数量表現・程度表現
- 3 事例研究(1):日英語の程度副詞の意味
- 4 事例研究(2):状態変化動詞と数量表現・程度表現
- 5 事例研究(3):「ている」形と数量表現・程度表現
- 6 事例研究(4):漸次的対象動詞と名詞の量化の対応関係

## <日程>

| 27日(土)          | 28日(日)             |
|-----------------|--------------------|
| 13:00 開講式       | 10:30 講義—4         |
| 13:10 講義—1      | 12:00 講義—4終了 休憩 昼食 |
| 14:40 講義—1終了 休憩 | 13:00 講義—5         |
| 14:55 講義—2      | 14:30 講義—5終了 休憩    |
| 16:25 講義—2終了 休憩 | 14:45 講義—6         |
| 16:40 講義—3      | 16:15 講義—6終了       |
| 18:10 講義—3終了    |                    |